

元気な地域づくり 活動報告会

平成21年12月17日（木）13:30～16:30

横浜市健康福祉総合センター 4階ホール

◎意見交換

コーディネーター 山路 清貴 さん（まちづくりコーディネーター）

コメンテーター 名和田 是彦 さん（法政大学法学部教授）

発表者 石川 晴彦 さん（鶴見寺尾地区福祉のまちづくり推進協議会会長）
(50音順)

清水 靖枝 さん（阿久和北部地区社会福祉協議会会長）

中山 敏明 さん（かちだ連合自治会副会長）

星野 耿(あきら) さん（旭北地区連合自治会会長）

○山路 皆さん、こんにちは。後半の部を開催させていただきます。

この時間、50分ほどでございます。その中で地域づくりのヒント、秘けつを、発表いただいた方と名和田先生から頂戴できたらと考えております。

今、質問カードをたくさん書いていただきましたが、進め方としては、この質問カードを少し御紹介しながら、それぞれの地区に対してもう少し深めた話を伺えたらと思います。

発表地区からお一人ずつパネラーという形で残っていただきましたが、全部お一人で処理しなくても結構です。お仲間がたくさんフロアにいそうなので、「これはあのの方が詳しくそうだ」ということであれば、どんどん振ってください。ですので、フロアの方も覚悟してください。できるだけみんなでやりたいと思っております。

それから、最後に名和田先生に全体をまとめていただく時間を持ちたいと思います。よろしくをお願いします。

この4地区、環境的にかなりバラバラですよ。かちだ地区は、中層のエレベーターのない、割と古めに見える団地（※現在は改修が進み、エレベーターがないのは3棟のみ）。阿久和北部はのんびりした田舎風情があるような、畑の中に新しい住宅も入っているような地区ですね。寺尾地区は、鶴見ですから都心に近いわけですがけれども、それでも割と古い時代に出来上がった、戸建てあり社宅あり新しいマンションありというような、それも丘陵、山がちの丘陵部。旭北地区は、広い範囲の中に、これも団地あり戸建てあり農村部あり、色々な環境が混ざっている地区です。

それぞれ町の出来上がった背景はバラバラですが、今日お聴きした感じだと、活動内容は4地区とも実によく似ている。そこにある秘けつもよく似ているんじゃないかと思いま

したし、もしかするとお感じになっている課題も似ているのかもしれないと思いました。

では早速、かちだ地区ですが、発表では「今後の課題は後のディスカッションの中で」と言って終わりにになりましたが、一番感じている課題が何か御紹介いただけますか。

○中山 今後の課題として3つ4つ挙がってるんですけども、6番目のちょいボラの件なんです。まだ実際にやってないので、どういう形で持っていくか今、試行錯誤中です。それがちょっと心配だということで、緊急連絡先カードのことにつきましては、カードの見直しということで今年度、全所帯に配布するというように決定しました、事務局会議で。年齢を限定せず、全員、団地全員ということで、回収率がどのぐらいになるのか、本当に信頼関係がなければできないと、そういうふうに感じております。

○山路 新しく始める「ちょいボラ」を具体的にどうするかということですね。それは皆さんの中で検討していけば良い成果に結び付きそうですね。

それでは、幾つか承った質問にお答えいただきたいのですが、あまりにたくさん来てしまって、すべては聞けません。そこで、御意見等はまとめていただいて、何らかの形で皆さんにお戻しすることを事務局にお願いしました。

「サロンの会の人集めとはどんな工夫をしておられるのですか」という質問が、かちだ地区に来ています。中山さん、引き続きヒントを教えてくださいませんか。

○中山 サロンひだまり。まあ、役所の方から「こういうこと言っちゃいけない」と言われたんですけど、うちの連合会長は裏で「ピンクサロン」って呼んでるんです。「青春を取り戻そう」ということで。

まず周知徹底なんです。チラシを作って各階段全戸配布、それから外周りの掲示板。もう周知徹底です。今のところ多いところで20名ぐらい平均来ておりますけど、もっと広げようということで、地域の要である階段委員さんをお願いして、各団体にPR中です。それを繰り返すということしかないと考えています。1人がまた1人連れてくると。足し算ではなくて、掛け算みたいな方針。1人が1人じゃなくて、1人が2人も3人もという、そういう形に持っていきたいなと思っています。連合会長、それでよろしいですか。

○山路 どうせなら、連長さんにもお答えいただけますか。

○千葉 ええ、ちょっと御指名ございましたので。かちだ連合の千葉でございます。よろしくお願いたします。

サロンひだまりは、開設が今年の9月30日ということで、まだ日が浅いです。それでぼちぼちという形で自主的に参加ということで呼び掛けて、例えば各階段、あるいは、掲示板、エレベーターの中にまで全部そういう呼び掛けの広告を出しております。

今、だいたい20名前後は毎週水曜日、行っているんです。で、毎週ですから、少ないのか多いのかは分かりませんが、毎週には順調に来ておりますので、果たしてこの少ないのを嘆くのか、あるいは、多いほうを喜ぶのか。少ないということは、あまり孤独感を感じていない人の方が多いのかなと感じております。

でも、やはりまだまだ始まったばかりですので、知らない方も多いと思います。まだ中身についても「何をやっているのか」と。ちらちら眺めに来る人もおりますが、そういった感じでございますので、やはりお互いのクチコミで参加した人が1人2人と呼び掛け合って参加できるように。まあ、できるだけ色々な面で規制がなく、本当に気楽に参加でき

るようなそういうひだまりサロンということを目指して、これからもどんどんどんどんPRに努めていきたいと思っていますところです。

○山路 どうもありがとうございました。じわじわとクチコミと呼び掛けでもって広げていくというやり方、それも割とキメ細かくねらいを定めているというお話でした。

次に阿久和北部地区。「隣組を10軒にしてやっていくということの発想に感心しました。そういう隣組的な発想でやることに関して問題とか抵抗ってなかったんでしょうか。どうしても参加したくない、みたいな人がいた場合に、どういう説得をしたりしてやってるんですか」という質問が来ています。

○清水 はい、そうですね、今までは10軒単位で一組にする前は、多いところで20軒であったり、少ないところが5、6軒なんてところもありましたものですから、なるべく元の形を崩さないように10軒ずつ分けました。確かに「昨日までこちらの人と一緒に組だったのに、どうして今日から違うの」なんていう声もありましたけども、きちんと目的をお話して、組が分かれたからって自治会が分かれるわけじゃないので、どうしてこの組分けが必要かという話をきちっとさせていただきました。2、3人の方が「あの人と別れるの嫌だ」みたいなことがありましたので、「永久の別れになるわけじゃないんだから」っていうことでご説明しました。ほぼ10軒、皆さん納得してやっていただきました。本当は私自身ですね、というか、私どもの役員が「もっともって抵抗があるかな」と思ってたんですね。ところが、あまり抵抗もなく、いかにお隣近所の助け合いが必要かっていうことが皆さんのところに伝わったんじゃないかなと思ってます。

○山路 かちだ地区は階段委員というのがすごい象徴的な隣組のつながりですよ。もうこれは逃げようがないっていうか、階段でしか行けない同士の。中には仲が悪い人もいるかもしれないですけど。つまり、そういう隣組的な中で必ずしも仲良くする話でもないのかなと感じましたが、階段委員さんには、何か問題というのはないのですか。

○中山 先ほどの発表で申しましたが、超高齢化してます。恐らく横浜市の中でハイレベルのところで、階段委員さんになる人自体が70、80。90だとちょっと無理なんですね。毎月1回定例会がありますので、その高齢化っていうことで、役員の高齢化ということで悩んでいます。それも今、色んな改良点を試作中です。だから、年齢制限を設けるのか、75歳以上の方で申し出があれば階段委員を免除するとか。「免除」って言葉は悪いんですけど、来年、再来年また元気になったときとか、そういうことも一応考えてます。

○山路 輪番制で順番にやっていくというやり方なんですね。

○中山 そうです、はい。中には「できない」という人もいますが、飛ばして、10軒両隣ですから、中にはできる人がいますので、それで40年間やってきましたので、恐らくこの形がずっと続くと思います。

○山路 当然のこととしてのつながりがあるということが、やりやすい面なのかもしれませんね。清水さん。始めは心配があったけれど、皆さんやってくれたという、そこには秘けつは何かありませんか。

○清水 いや、秘けつと言われても、ただ今、なぜ見守り合いが必要かという話を、先ほどのチラシではないですけど、一生懸命に皆さんにお話しいたしました。これは防災の切り口からあえて入らせてもらったんです。防災だと皆さん取っつきやすいかな。いきなり

「見守り合いで」と言ったら、きっと10軒の組はできなかったのではないかな。

それで、防災の切り口と申しますのは、私どもの自治会は防災拠点までかなり遠いんです。と同時に、いっとき避難場所までも遠い。

だとしたら、いざ何かあったときにどうするのか、それはもう自分たちで何とかしなくちゃいけない。そこで10軒単位の組で、自分たちの避難場所をそれぞれみんな決めてもらいました。まず何かあったらそこに集まりましょう。お互いの安否を確認しましょう。更にお隣場カードにある「いざとなったら助けてほしいという人のところには、みんなで駆けつけましょう。そうやってみんなで助け合っていくと、いざとなったときに本当に皆さん、無事に過ごせるようになりますよ」、そんな切り口から入りました。10軒が一番お互いみんな見やすいでしょう、という話からなりましたので、あまり抵抗もなく「それならば」ということで、組が編成できました。

○山路 ちなみに、阿久和北部地区に対してはもう一つ、これは質問というよりはお願いですけれど、「全戸配布の毎年のチラシというのをお作りになってるということですが、参考に後日、頂けませんか」というものですが。

○清水 どうぞどうぞ、幾らでもお出しいたしますので。これ、全戸配布のチラシは、やがて阿久和北部全体のところにはお配りしようかと思っておりますので、どうぞお使いくださいませ。お申し付けください。

○山路 それでは、終わった後、直接コンタクトを取っていただけたらと思います。

では次の質問。寺尾・寺尾第二地区に対して「私たちのまち探見隊養成講座をもう少し詳しく知りたいんですけど」という質問がありますけど、いかがですか。

○石川 私どもがまちづくりの協議会を開きまして、まず最初に町を歩いて、健全な方、障がいのある方、色んな方たちが集まって、それぞれの観点でお話したいとなりました。そこで、「このような方法で探検隊を作成していきたい」という山路コーディネーターのお話もございまして、まず地図を作り、「今後はこのような地域を回りたい」となりました。それから、ディスカッションをしながら講座を4回ほど開きまして、その地域の問題点、それから寺尾地区は色々な歴史的な地域もございまして、そのような予備知識などを色々とお話いただきまして、頭の中に入れながら町歩きをしました。そのときには記録係、撮影係、それからメモ係という係を設けまして、後ほどその資料に基づいて色々とお話を行うという方法でやっておりました。以上でございます。

○山路 最後に出てきたメモ係とかを決めるってことは、何気なく歩いてしまうと、何気なく通り過ぎてしまう。見る人によって見ている場所が違うので、後で帰ってきたときに「あそこそうだったよね」と言っても「あっ、そうだったっけ」みたいな話になる。きちんと記録を残していくことで課題が見つかって、そこから新しいプロジェクトが起きるということをやっているということですね。

実はこの会が始まる直前に、横浜市社会福祉協議会の方から「これを言ってほしい」と言われたのですが、この寺尾福まちの取組が本になっていて、横浜市社会福祉協議会で発売しています。定価1,000円ですが、本日に限って特別価格で配布してくださるそうです。その本には、今の話も含めて詳しいプロジェクトの進め方が全部書いてあるということで、是非、御購入いただければという宣伝をさせていただきました。

ところで、会場に目をやりましたら、寺尾福まちに立ち上げ当初から関わっていらした小清水さんを見つけました。かつての寺尾地域ケアプラザの所長さんです。始められたときの動機とか、ちょっとお話しいただけませんか。

○小清水 横浜市社会福祉協議会の小清水です。

始めるに当たってですね、町の状態を見るというのも大切なんですけども、町をみんな愛していくために、「いい点を特に見つけましょう」と進めました。「道の狭いのもすごくいいよね。坂のあるのもすごくいいことなんだよね」、「あそこの家にきれいな木が植わっているよね」とか、「庭が荒れてるようだけど、色んな花が咲いてるね」とか、そういう地域を愛していくということも目的で、すごくいい点だったと思っています。そんなところですよ。よろしいでしょうか。

○山路 突然のご指名にもかかわらず、どうもありがとうございます。

もう一つ「てらお福まちプロジェクトについて色々知りたいんですけど」というご質問が来ていますが、てらお福まちには私も関わっていますので、補足いたします。誰でも、全くの個人でも参加できる作業部会というのがあります。先ほど会長から紹介いただいた代表者に組織の方々がたくさんいて、あたたかく全体を見守ってくれていますが、所帯が大きいのでどうしても動きづらくなります。そこで個別に色々なことをやる作業部会の中で、ともに汗をかき、小さくてもできることをどんどんやっていくやり方をしています。

実は、この辺が共通しているところかもしれないなと思ったんです。つまり、小さなことをできるところからやっていく。先ほどの発表の中でも、かちだ地区の中山さんは「できることから始めよう」とおっしゃいましたし、清水さんも「目に見える形にして、できることから」というような、同じようなことをおっしゃっていました。

旭北地区も、どうも割とキメ細かいことを小さくやっているような感じもします。

中山さん。小さくやるというか、できることからやるという真髄、その辺の秘けつをお話しいただけますか。

○中山 はい、ありがとうございます。

先ほど千葉連合会長もおっしゃってましたけれども、盆踊りにしても、私たちのふるさと勝田団地というテーマの下でやると、発足当時は全国から、北は北海道から南は九州まで、盆踊りって言えば1,500人ぐらい参加して、子供も多すぎて、うるさいぐらいでした。今は周りの町内会から応援に来て、700人ぐらい来てる。子供も大体多い。で、団地で育った子供たちの孫とかひ孫とか来て、まあ、人数的には増えてるんですけども、何か一つテーマを決めて住民に投げかける。すると、「自分のできることは何か」ということで、みんな階段委員さんをはじめ考え出す。毎月の定例会では、こういう冊子を使って説明会やるんです。「皆さんのできること、この中にありますか」とか、第2自治会の会長さんの下では、「あいさつはどういうふうにしていますか」と。みんな決めてこういう冊子ができてるんです。

まあ、何でもできることは何かという問題提起を、なんか各自治会長がしてるみたいです、毎月の定例会で。まあ、そんなもんですね。

○山路 清水さんからも、「できることから」とか、何かあったらお願いできますか。

○清水 まず自分の隣近所で「できることから仲良くしましょう」が一番だと思いますの

で、当たり前のようなんですけど、それができてないから今、色々な問題が出てきているのではないのでしょうか。本当に簡単なことなんですけど、実は今は難しい。だけど、それを簡単にしましょう、気持ち的に。そういう動きで今やっています。

○**山路** 簡単に。だから、あまり大事にして、何か「大変だな」と思っちゃうと動けなくなってしまう。

○**清水** 駄目ですね。はい、そういう形でやっています。

○**山路** 旭北は特別、小さくとかはおっしゃってなかったけれど、やはりできる所からやっているような感じを受けたのですが。

○**星野** はい、旭北は平成14年ぐらいまでは、どちらかという目標を持たず連合会活動や社会福祉協議会の活動をやってたんですね。「これからは目標をひとつしっかり持ってやろうよ」というのが我々の考え方で、私が連合会長になったときに、目標をしっかり作ってやろうとなりました。その「目標に向かってやろうよ」ということが地域の結束になるんじゃないかな、と思い、これは勝手な思い込みだったんですが、始めました。

当連合会は24自治会あるんですが、毎年12から13の自治会で、会長さんが替わられます。だから、話をしても1年たつと、また新しい方が出てきます。これがなかなか進めるのが厄介で、「社会福祉協議会のほうが事が早いね」というようなことを、前々から思ってたんです。区社協と連合とうまくかみ合わせて、私が連合と社協の会長も兼ねましてこれを進めてまいりました。それで目標をつくって、やってきました。先ほどの子育てですが、「子育てを支援しようというのは何のためにやるの」、というようなことを言われるとですね、我々はやっぱり「少子化を止めよう」と言って偉そうなことを言っても、なかなか止まるもんじゃないんですが、もう一つ手近な問題として、旭区もあちこちで小学校が合併・閉鎖になるんですね。私どもの地域には4か所の小学校があります。そのうちメインが、白根小学校、上白根小学校なんですけど、ここの子供たちを減らさないようにしようじゃないか。そのためには「中学を卒業して結婚したら、またここに帰ってこいよ」と言いたい。「地域にマンションが建ったよ。だから、親の面倒を見に戻ってこい」と言ってもなかなか戻ってきませんので、「子育てのために戻ってきてくれ」と。「こういうお祭りもやって楽しい町だよ」ということで、一生懸命宣伝をしております。

ここ3年ばかりですね、毎年、新生児の出生率がこの地域で大体300名生まれています。これが小学校2つに分かれていっても、150名ずつ行くんですね。「定員割れを起こして閉鎖なんてことはないね」という一つの考え方を持っています。これが子育てやれるんですね。

それから、先ほど言った防災防犯、これはもう地域団体として一早く我々が結成して、ブルゾンそろえて、派手なブルゾンを作りましてね、活動をやりました。

今、真剣にやってるのが、先ほどからよく出てます見守り活動だとか、災害時要援護者、これをどうするかということについては、今、途上でございますが、一番問題になっているのが個人情報保護という法律が出来上がって、それで我々が色んなことで行き当たって、ぶつかって、なかなかこれがうまくいかない。まあ、「個人情報も大事だけど、社会福祉も大事だよ」というようなことを言ってやっております。そんなことを含めて、色々やる時には実行部隊をすぐ作っちゃいます。で、実行部隊にお願いして進めてもらいます。「何でもやろう、早くやろう」と。「議論ばかりしたって始まらないよ」というのが我々の考え

方なんです、議論が好きな方もたくさんいらっしゃいます。これはもうどこの地域でも同じだと思います。議論ばかりして「じゃ、一体何してるの」というようなことがよくあるんですが、我々はもう目先一つずつ解決してまいります。安心カードも議論ばかりして先に進まないものですから、これもポンポン連合でやっちゃいました。そうしたら「これを見直そうよ」という方もいてですね、今、大変苦勞しております。

それから健康カードというのも作って、これも全所帯に配ってですね、「救急車が大体、出発するまで35分かかる。その間に命を落としたらどうするんだい」というようなことで、これは今宿連合町内会からヒントを頂きまして、早速、全所帯に配って、その中に一番大事な「この方はどこの病院に掛かって、診察券番号」、これ一番大事なんです。我々、介護やってますので、診察券番号が分からないとですね、「どこどこの何々さん、何丁目何番地の何さん」と言っても相手、病院のほうが分かんないんですね。「お宅の病院に掛かってる、診察券番号は何番だ」と言うと、ああ、内科外科すぐ分かっちゃいます。こういったことを全部書き込んでもらいます。もう「個人情報、個人情報」言いますんで、「我々は連合会、社会福祉協議会、民生委員、関与しません」と言ってます。「消防署とあなた方救急隊との連絡のカードですから、どうぞお使いください」という形で進めています。こういうふうの一つひとつどんどん進めております。

○山路 今の星野さんのお話しは、これから質問しようとしたことを先回りして答えられてしまったところがあります。

そこで次の質問に飛びますが、「災害時の要援護者対策の現況と個人情報保護について知りたい」というものです。寺尾は災害時要援護者そのものはやっていませんが、ほかの地区はテーマとして大きかったと思います。個人情報保護法などが何かネックになっているのか、うまいことかわしてやれているのか、その辺に関してお聞きできればと思います。

○清水 私どものお隣場カードは、先ほど言いましたようになぜ10軒にしたかという、阿久和北部全体のアンケートを見ても、10軒ぐらいたと家族構成や、大体どの辺にお勤めしてるかもいつの間にか分かってるんですね。そうすると、あえて個人情報保護なんて言わなくてもお互い分かり合ってるわけですから、そうしましたら10軒ぐらいで一単位にして、その情報カードを組ごとにまとめることによって、皆さんが安心してカードをお出しただけじゃないか。で、カードを保管しているのはその組のリーダーさんですね。お隣場リーダーさん。これは組長さんになったり、あるいは、お隣場リーダー、別に選んでいただいても結構なんです、とにかくそうした形で組の中でカードを保管しておくという形を取っております。ですから、ほぼ100パーセント皆さん安心してリーダーさんに届けられます。

組だけで分かっている自治会全体で分からないと困りますので2枚書いていただいて、1枚はリーダーさんが保管します。これ、日ごろの見守り合いのときにも大いに役立ちますので。もう1枚は自治会の本部にお出しいただいて、それは本部で保管しておきます。これ毎年出していただいています。

で、お出しいただいたときは古いカードを必ずその方にお返しします。新しいカードと古いカードを常に交換しながらやっていきます。それと同時に、家族の中で変更があった場合も改めてお出しいただく。そうした場合には古いカードをお返しするというような形

ですね。実はその昔、自治会全体で防災のためのカード、いわゆる安心カード的なものをお出しただろうと思ったら、かなり抵抗があったんですね。ところが、組単位になって組の日常の顔が見えるところでやり取りするというと、皆さん安心してお出しただけでいます。今そんなことで、さほど個人情報的なことはあまり問題になっていません。

○山路 その隣組というのがポイントなんですね。

○清水 そうですね、はい。

○山路 中山さん、何か補足することとかありませんか。

○中山 今日御参加の民生委員の会長の朝倉さんもいらっしゃいますけれども、社協では私どもの災害ボランティアが登録して24名。そして、しつこいようですけど、地域の絡み、10軒一組ね、10軒両隣ということで、まず災害が起きたときは逃げてください、自分に余裕があったら助けてくださいと。そういう自主防災組織も連合自治会長の千葉さんの下で全部つくってあります。階段委員さん、棟長さん、自治会長、三役連合と、そういう自主防災組織も作ってあります。ですから、本当に私の言いたいのは、先ほど「今後の課題」ということで対象者の拡大、要支援者にも全部、目的はそこだったんです。要支援者の方にもこの緊急連絡先カードを、会長印を押して本人に書いてもらって封印をして、「緊急時以外は開けません」と、会長が直筆で書くんです。1枚1枚の封筒に。で、「緊急時以外は開けませんので」と言うと、ほとんど書いてくれます。個人情報っていうのは、話では聞いているけれども、団地には個人情報ってないかなと思ったけど、横浜市は厳しいです、個人情報については。以上です。

○山路 横浜市の人にここで聞いては問題でしょうかね。どなたでも結構ですが、個人情報と言っても災害時の要援護者のやり方で、「こんな面白いやり方、いいやり方でやってますよ」という紹介をいただける方、いますか。

○星野 私ども、今ちょっとオーバーに言いましたけれども、個人情報の問題をクリアして、今、地域の民生委員さんが非常に頑張って集まってやっていただいています。今のところ大体580軒出ております。

それと、横浜市の要援護者のカードとドッキングさせて、連合の先ほどの拠点に保管をしています。そうすると「そういう場合、体制はどうするんだ」となります。これがやっぱり非常に問題だったんですが、救援体制は各自治会の皆さんにお任せをしております。とにかく要援護者に対する救援方法は自治会で考えてくれ、と。自治会独自にやっていたくようにしました。

ですから一応、個人情報の問題はクリアはしております、現在は。

○山路 「非常に身近なところ、よく顔の知ったところで始めるとうまくいくよ」という感じなんですね。どうもありがとうございました。

大分時間もなくなってきました。この後、名和田先生に少し総括的なお話を頂きたいと思います。まとめもお任せします。

その前に、全部読めませんが、他の質問もちょっとご紹介だけします。一つは「自治会長さんや民生委員さんの負担はどうですか」という質問。それから「活動に要する費用を知りたい」、「自治会費は幾らですか」とか、自治会に関する活動の現状についての細かい質問を幾つか頂戴しました。

市民活力推進局では自治会町内会の活動状況の報告書なども出していらっしゃいますから、その辺も御覧になったらいいかもしれません。ちょうど市民活力推進局の林部長の顔が見えましたので、「こういうところへ行くと資料もあります」というものがあれば、ちょっと御紹介してもらえませんか。

○林 市民協働推進部長の林と申します。今日はたくさん集まっていただいてありがとうございます。

自治会町内会のデータですが、頭に入っているのを申しますと、先ほど名和田先生が「自治会加入率が年1パーセントずつ下がってる」とおっしゃいましたが、横浜市も、実はそうございまして、20年の4月で78.4パーセントでしたが、21年4月には77.6パーセントと、やはり残念ながらちょっと落ちています。実は世帯数は増えているんです。ただ、人口がそれよりも増えているので、やはりマンションなどが建っても、なかなか自治会には加入していただけないとか、多分、地域の方は、そういうことでお悩みだと思います。

先日、不動産の宅建業界さんとも協定を組んだのですが、私たちとしても、ありとあらゆることをやりますし、地域活動に新たな担い手がどんどん現れるようなことも含めて地域の人と一緒に考えながらやっていきたいと思っております。

○山路 自治会が元気になるためのハンドブックのようなものもお出しになってましたよね。

○林 はい、それはせっかくですから、課長から。

○勝山 地域活動推進課長の勝山と申します。

先ほどのデータ関係ですが、平成15年までは、毎年、現況調査というのをやっておりました。ただ、自治会町内会の負担も大きいかなということで、昨年、5年ぶりにアンケート調査やりました。現在、横浜市の市民活力推進局の市民協働推進部のホームページにデータを掲載しています。そちらを見ていただくと、最近の自治会町内会の活動状況が書かれています。そちらを参考にいただければと思います。

なお、先ほど部長が申し上げました、宅建協会、横浜市内に6支部ございまして、6名の支部長さんと、横浜市と、市の連合町内会の三者で、自治会町内会加入促進に向けた協力関係の基本協定を結びました。今月から来月にかけては、詳細な事項をお願いするために18区で打合せを持っております。というのは、6支部の中に幾つもの地区があるため、具体的に、個々の不動産、お店の方に、加入促進のご協力をいただきながらやっていこうとしているところでございます。

○山路 データのことは、特に市民活力推進局地域活動推進課というところに言っていると、色々出していただけたと思います。是非御活用くださいって私、別に役所の人間じゃないんですけど、申し上げておきます。

あと5、6分ですけども、名和田先生、おまとめいただければ。

○名和田 まとめなきやいけないという話ですけども、まあ、感想のようなことで御勘弁頂きたいと思えます。

さっき山路さんが「4つともよく似ている」というようなことをおっしゃって、私もそう思います。非常に高い水準、最近、ほかの自治体で色々と地域の状況を見せていただくんですけど、これぐらいの水準のところはゴロゴロあるというのは、360万という大きな都市だからかもしれませんが、やはり私が講演で申し上げたような、歴史の中で横浜市民が

鍛えられた結果ではないかというふうに思います。本当に誇らしく思いました、今日も。

ですから、4つとも似ているので、多分これからそれぞれの地区について、私がとりわけ印象深く思ったことを申し上げるんですけども、それが多かれ少なかれ、ほかの地区にも当てはまることとしてお聴きいただきたいと思います。

最初にかちだ地区については、色々おっしゃった中で、やっぱり顔が見える関係づくりっていうか、見ず知らずの人でも住民に何か声を掛けたり、関係を結んだりしていくっていう姿勢を特に感銘深く伺いまして、最後のほうで会長さんも「あいさつ」ということをすごく言われましたね。本当に大事なことだと思うんです。あいさつをすることによって相手に「あなたを大事な人として認めてるんだ」という思いが伝わるわけですね。それでブスツとして返事もしないで無視しているようであっても絶対何か伝わってるはずだと思うんです。これが顔が見える関係づくりの本当に基本だと私も思いました。

それから、阿久和北部はもうよく存じ上げていて長い付き合いなのですけれども、この間も地域福祉保健計画の会議とか、あるいは、長屋門公園を見学させていただいたりとか、そういったときの印象を振り返りながら話を伺いまして、やはり団塊の世代へのアプローチですね、大事だ大事だと言われながら、あまり成功事例を聞かないんですけれども、長屋門では随分成功しておられるところが、特筆されると感じました。

それから、中学生に対してもアプローチするという点も素晴らしいですね、これもなかなかできそうでできないこと。それから障がい者っていうか、社会的なマイノリティーも忘れないでちゃんと問題を考えていくということ、これらのことに着眼できているということが非常に素晴らしいなと思いました。

それから寺尾・寺尾第二地区ですが、こちらもほかの地区と多かれ少なかれ共通しているんですけれども、やはりお話を伺って、ソフトとハードと両面にわたる総合的なまちづくりを行う主体に地域が成長しているということですね。私も今日の講演で、ソフト的な地域福祉の話とハード的な地域まちづくり条例の話と両方目配りしたつもりですけれども、やはり、地域の中で一つの課題としてあるわけですね。ですから、都市計画マスタープランの会議を持てば、必ず地域福祉の話題も出るのが自然であります。それは地域の方が分かってないからじゃなくて、よく分かっていることの結果なのだと思います。

寺尾でも正にこの2つのテーマを車の両輪のようにして、地域組織で取り組んでいらっしゃる場所に非常に感銘を受けた次第であります。

それから旭北地区も、これも本当に色んな発見があったんですけれども、特に空き店舗を活用して連合の事務局、あるいは、地区社協の事務局を置いているということで、やはり今後、私は地域の事務局が必要だと思うんですね。大分前に、今の市民活力推進局に当たる、協働事業本部というのができて、そこで自治会町内会に関する見直しの委員会をやったことがあります。あの結果、地域振興協力費の見直しなどが行なわれて、何人かの会長さんにはトラウマのようなものかもしれないんですけれども、でも、私はやはり基本的にはやっていかなければならないことで、それに地域も行政も果敢に取り組まれたのだろうということだったと思います。

あのときに「地域の事務局」というキーワードが既に出ておりまして、あまり具体的な肉付けはなかったんですけれども、私はそのときから、連合自治会ぐらいのレベルで事務

局体制を持たねばならないと考えていました。清水さん、阿久和北部の事務局長なんですよ。こういうものが必要で、かつその場合、やはりどうしても拠点になる事務所が必要だと思えます。そのことをああいいう形で実現されている旭北の取組を見て、非常に素晴らしいなと感じた次第であります。

今の話と関連するんですけれども、以上4地区について一言ずつコメントさせていただきましたが、あまり出なかった話題として、今、まさしく質問にちょっと出てきましたけれども、費用の問題ですね。私が講演で触れた資金の問題なのなんですけれども、これを今後どうやって確保していくかということを経営も市民も地域も考えなければならないということが、今後の課題としてあるのではないかと思います。実験的なプロジェクトで、「こういうことをやりたいんだけど」というときに、自治会町内会がお金を出してくださるということ、よくありますよね。あれ、実はほかの都市ではなかなかないように思います。一見、自治会が出しているようでも、ちゃんと後ろから行政が出していたりとかですね、そういうことが多いんですけれども、横浜市では本当に正真正銘、行政も出せない、市民も出せないという中で、「じゃ、それ大事だと思うから」ということで自治会がお金を出してくださるということはたくさんあります。地域福祉の取組なんかでもたくさんあったと思います。

でも、一自治会でできる金額って限られていますので、いつまでも自治会に頼るっていうことはできないわけですから、これをどうしていくか、今後みんなで知恵を出さなければならないと思います。こんなことを考えながら今日、非常に勉強させていただいておりました。

本当言うと、個人的にはさっきの自治会長さんとかの負担っていう問題を実は聞きたかったのですが、それは今後、地域の皆さんに教えていただくとしまして、本当に今日は勉強させていただいて良かったと思います。4地区、やっぱり横浜って素晴らしいなというふうに思った次第でございます。以上です。

○山路 どうもありがとうございました。最後に一言だけ、私もお礼方々申し上げます。私も今日、一つだけでも何か地域づくりの秘けつを捉えようと思っていたんですが、実は一番最初にかちだ地区が、「かちだ」だからではないでしょうけど、まず、勝ちどきを上げられたときにですね、もうあれで、地域づくりっていうのは元気に、前を向くということが一番の秘けつかなと強く感じまして、そこで私の今日の目的は達せられてしまいました。

ということで、セッションを終わらせていただきます。どうもありがとうございました。